エス ディージーズ
SDGs
持続可能な世界へ2030

NPOピースサポート協会ニュース １３号

ピースサポートは「こころの平和支援」の願いが込められています。2022 年（令和４年）５月

発行　NPO ピースサポート協会
〒379-2143 群馬県前橋市新堀町 190 番地１
TEL/FAX　027-265-2277
E-mail：info@peace - sa.co
URL:http：//peace - sa．com

令和４年２月 24 日　ロシアがウクライナへ軍事侵攻！　市民標的の戦争犯罪はゆるせない！

令和４年４月 22 日前橋テルサホールで、ウクライナ出身のビラ・オリガさんとパートナーのアクロバットパフォーマンス公演に参加しました。
オリガさんは 10 年前から日本でアクロバットパフォーマー公演している。しかし今、首都キーフで暮す母「日本に避難して来て」と頼んだが、「弟が軍に招集され、親族を守るため離れられない」とのこと。もし私が現地にいたら憎悪で戦争に志願しただろう。
オリガさんは、悩んで公演には前向きになれなかった。しかし日本にいて何ができるか、「ウクライナを知ってもらう良い機会になれば、祖国への助けになる」と思い決心して出演した。
「ウクライナは昔、きれいなドニプロ川のほとりにキーィ兄妹 4 人によって作られた街です。黒土を生かし農業を中心に発展した、とてもきれいな広い国です」誇らしげに話されるオリガさんの心境を思うと深い深い悲しみが伝わってきました。「日本の皆さま本当にありがとうございます」と深々と頭を下げてあいさつをして公演終了になりました。　私たちは一日も早く戦争が終わることを祈り、ウクライナの人たちのために支援をしていきたいと思います。　　*記：理事長久保田光明*

「独立ウクライナの旗」は、ソ連邦時代から
ウクライナ独立のシンボルとして使われた。
青は空を、黄は大地を染める小麦と農業を表す。

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）より

２月 24 日にウクライナでロシアの軍事侵攻が始まってから国境を越えて避難を余儀なくされた人は 450 万人を超え、ウクライナ国内でも 700 万人以上が家を追われています。まさに今、第二次世界大戦以降、最も急速に拡大している難民危機が起こっているのです。世界各地では 8,000 万を超える人々が紛争や迫害により故郷を追われています。アフガニスタン、ミャンマー、シリア、コンゴ民主共和国、ベネズエラ・・・。
今大切なことは、“社会全体での支援”　“誰一人取り残さない支援”の実現が「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成のカギとなります。
UNHCR は、現場にとどまり活動を続けます。ご支援お願いいたします。
※この記事・写真は UNHCR の HP より掲載しました。

生後３カ月と３歳の子どもを連れてハンガリーに逃れてきた母親。夫はウクライナに残ったままだという。現場では脆弱（ぜいじゃく）な立場にある人々への人道支援の強化が急務だ！
© UNHCR/Zsolt Balla
2022 年３月 11 日

ロシア・ウクライナ侵攻から学ぶこと！

① *戦争とは、国が他国に対し、自己の政治目的を達するために、経済，思想，軍隊や武力を行使し、互いの国民を殺し合い、すべて破壊する争い。*
② *日本国も 77 年前までの戦争で、多くの尊い命が犠牲となりました。そして今、平和憲法の三原則、「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」を掲げ、決して戦争しない平和の国になれたのです。*
③ *私たちは、平和の大切さを深く噛みしめ、一日も早い終戦を祈り、ウクライナの人々のため最大の平和支援をしていく時ではないでしょうか。*

５月 17 日　群馬県ウクライナ難民支援事業へ寄付金を お届けしました

群馬県山本一太知事が３月８日、ウクライナ避難民支援事業を立ち上げたことに、NPO ピースサポート協会は、その趣旨に賛同し「寄付金 50 万円」をお届けしました。
ウクライナの避難者は約 1000 万人と増え続けています。現在日本への避難者 979 人、私たちは、支援者の皆さまと共に「一日も早い終戦」を祈り、ウクライナの人々が幸せな生活ができるよう「ウクライナ難民支援活動」を力強く推進してまいります。

群馬県知事戦略部長 田子昌之氏と

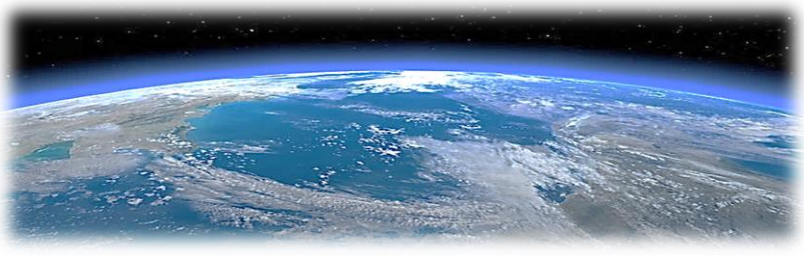
SDGs とは 世界を変えるための 17 の目標！

SDGs（エスディ-ジ-ズ）とは、「持続可能な開発目標」。「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題の課題を、世界のみんなで 2030 年までに解決していこう」という計画・目標のことです。2015 年９月国連総会で 193 カ国が採択しました。日本は 2019 年５月「SDGｓ推進本部」を設置し、国内の企業・団体や自治体の取り組みを推進しています。

世界中で SDGs の取り組みが広がっています。

家の中での SDGs の取り組み！

- 電気やガスの節約・食べ物は残さず食べる
- エアコンの設定温度を下げ・上げ過ぎない
- 紙やプラスチック、アルミなどリサイクルする
- 電化製品は省エネ型を選ぶ
- コピー書類や請求書などの紙の使用を減らす
- 自転車で移動する。バスや電車の交通機関を使う
- マイボトル・マイバッグを使う　など



地球が誕生して 46 億年、人類が誕生したのが 700 万年前、文明が栄えるのが 2000 年ほど前でした。そして今からたった 100 年ほど前から、人類は地球のエネルギーを消費して、文明の進化と開発のために化石燃料による二酸化炭素を排出し、地球温暖化が急速に進み、自然環境が破壊され、生態系は崩壊し、あと 8 年で地球は大絶滅へのはじまりにいるといわれています。

母なる地球を　大切にまもりましょう！

21 世紀人類への教訓「非暴力」は 人間に与えられた 最大の武器である！

マハトマ・ガンジー
1869-1948

「21 世紀 の人類への 教訓 」

ガンジー翁はインド独立の父、インドで宗教の違いを超えた「民族自決の精神」を培い、イギリスへの経済的依存からインドを脱却させ、国民を救うために生涯を尽くした。
投獄と釈放を繰り返し受け、財産は身にまとった一枚の布と杖だけになっても非暴力運動の指導を継続し、断食という手段で身をもって民衆の感情の過熱を制しようとする、超人的な努力と自己犠牲を払った偉人でした。

ガンジーの名言・「七つの社会的大罪」

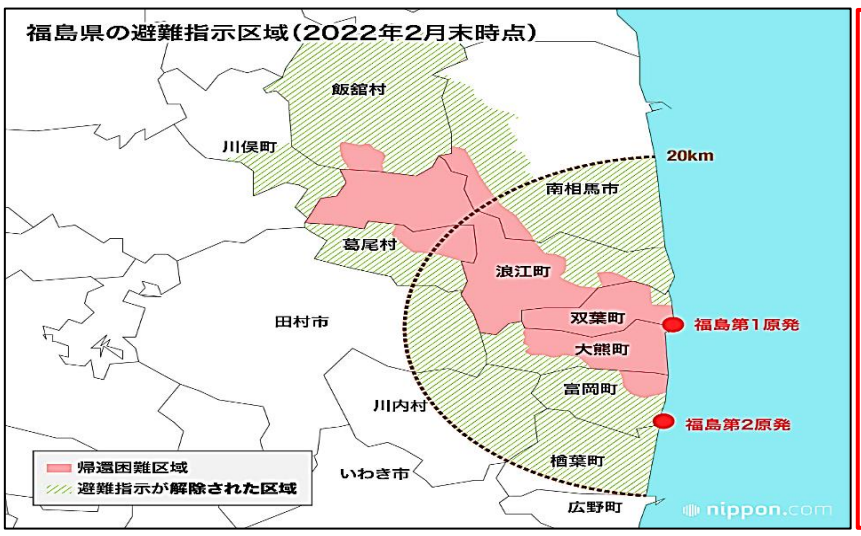
1 原則亡き政治　2 道徳亡き商業　3 労働亡き富　4 人格亡き学識
5 人間性亡き科学　6 良心亡き快楽　7 献身亡き信仰

非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力を持つ

束縛があるからこそ　私は飛べるのだ　　悲しみがあるからこそ　高く舞い上がれるのだ
逆境があるからこそ　私は走れるのだ　　涙があるからこそ　私は前に進めるのだ

21 世紀に生きる私たちは、この教訓を噛みしめて,家庭･社会･国家･世界の平和に向けて歩んでいきたいと思います。

令和４年３月 11 日 東日本大震災から 11 年：被災地を訪ねました。　忘れないで東北！



今も３万 8000 人が避難

2011 年３月 11 日大震災から 11 年、災害関連死を含めてこれまでの死者は１万 9747 人、行方不明者は 2556 人、全壊した住家被害は 12 万 2005 棟。22 年２月現在、今も３万 8139 人が避難生活をしている。

福島原発の廃炉作業

福島第１原発事故による放射線物質の放出・拡散により、原発周辺の６町村の一部が現在も避難指示区域（帰還困難地域）に指定されている。同原発で廃炉作業が続いている。増え続ける「処理水」を薄めて 23 年春に海洋放出する計画を承認。国内外から懸念が示されている。

政府は、各町村の帰還困難地域のうち優先的に除染が進められている「特定復興再生拠点区域」（復興拠点）で、2022 年春から順次避難指示の解除を行う方針。大熊町や浪江町では立ち入り規制が緩和され、住民が自宅で寝泊まりできる「準備宿泊」も始まった。しかし帰還を望む住民は、極めてわずかな数にとどまっている実情。

令和４年３月 12 日、石巻市雄勝町を訪ねました。

ワカメ支援のご協力ありがとうございます！

大震災より 11 年が過ぎ、道路も岸壁も整備され、時の流れを感じます。高くそびえ立つ防潮堤、海の様子も見えず自慢の風景もさえぎられ、とても残念です。
震災後に復興したワカメの養殖は、ピースサポートの皆さまにご協力いただき、お陰さまで元気に生活しております。長い間のご支援に感謝の気持ちで一杯です。コロナ禍で大変な時期ですが、これからも宜しくお願いいたします。

雄勝町漁師の横江さん。

令和４年３月 11 日、東松島市「あおい地区団地」を訪ねました。

自治会長小野竹一さん(74)11 年前の大震災、東松島は 1100 人の市民が命を落とした。小野さんは自宅が流され家族は難を逃れたが、生き残った人も住むところがない。みんなで行政と相談し新しい日本一の古里をつくろうと、数百回にわたる「町づくりの話し合い」を開催し、580 世帯の「あおい地区団地」が完成しました。その後、一人暮らしの見守り隊など、みんなで支え合う住みよい町づくりを推進しています。小野さんは「ここに住む人が日本一と思ってくれたら幸せです」と話されました。11 年前すべてを失った方々が、力強く助け合って生き抜いている姿に、大きな勇気をいただきました。

川上由夫さん（82）を訪ねました。

11 年前の 3.11、娘が孫と一緒に私たち夫婦を避難させようと迎えに来た避難中、津波にのまれ妻と娘と孫二人を失った。なぜ自分だけが！と生きる力を失った時、住職から「あなたが死んだらだれが供養するの」と励まされ、支えて頂いた事に感謝を込めてボランティア活動コンサートを毎年開いてきた。川上さんは「心に咲いた花は枯れない」多くの人に感謝で伝えていきたい。と生きる力を教えてくださいました。

R4.5.11　群馬パース大学「地域ボランティア活動論」の学習開催。

６年目の今年の授業、コロナ禍の中でも 218 名の学生が「地域ボランティア」について学習しました。ボランティアとは、社会のために喜んで活動する。それには、まず自らの行動を正し、人ために尽くせる人間になること、そして感謝の心で平和活動を推進する大切さを学び合いました。　（久保田拝）

ワカメを食べて復興支援にご協力を！

ワカメの代金は被災地の漁師さんに直接振り込まれ生活支援になります。

ウクライナ難民支援にご協力お願いします！

皆さまからの支援金は、ウクライナ難民の方々のために使われます。

NPO 活動の事業報告･活動計算書は HP をご覧下さい。

世界中の幸せは一人の人の心から

NPO ピースサポート協会

事務所 〒379-2143 群馬県前橋市新堀町 190 番地１
TEL/Fax（027）265-2277 携帯 090-1113-9200
E-mail info@peace-sa.com　http://peace-sa.com